2017年4月16日

## 福音書からのメッセージ

週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。
（ヨハネによる福音書20章1節）

今日の聖書の箇所が伝えるイエス様の復活の物語は、不思議な出来事です。イエス様の復活物語は、様々なパターンで伝えられています。鍵をかけた部屋に現われたとか、疑っていたトマスの前に現われた、泣いているマグダラのマリアに、エマオに向かう弟子たちに、漁をしている弟子たちの元に、いろいろな形でイエス様は現れます。

しかし、今日読まれたヨハネによる福音書の20章1節から10節では、それらとはまったく違う角度から、わたしたちにイエス様のご復活を伝えていきます。

物語はこのような言葉から始まります。「週の初めの日、朝早く」。週の初めとは今でいう日曜日です。今日のような日曜日、その朝に驚くべき出来事が起こりました。その目撃者はマグダラのマリアでした。彼女はただ一人、墓へと向かいました。だれかと示し合わせたわけでも、何かをしなければならないという義務感からでもない。ただ彼女はイエス様に会いたい、その顔を見たい、その思いだけで行動しました。

彼女には必要でした。イエス様という存在が何よりも必要でした。イエス様がおられないなんて考えられないわけです。しかし彼女の目は、イエス様の姿をとらえることができませんでした。

イエス様はご自身が復活されたしるしを与えられます。それはイエス様はすでに、墓の中にはいないということでした。そこにおられないことがしるしなのです。死を克服して勝利した、イエス様の出来事がここに現わされているのです。とても不思議なことです。もしも墓の中を覗き込んだときに、亜麻布に包まれたままのイエス様がむくっと起き上がったならば、それこそ「生き返った」ということが見える形で示されたのでしょう。しかし彼女たちは、見えないものを見ることで、信じるようにされたのです。

難しいことです。2000年前の彼女たちにとってもそうだったでしょうが、今を生きるわたしたちにとっても、頭で理解することは無理です。しかしわたしたちは知っています。イエス様が墓の中から出られ、復活されたという事実を。見てはいないけれども信じている。それがとても大切なことなのです。

見えないものに目を注ぎましょう。目には見えないけれども、確かにわたしたちに起こっている出来事に目を注ぐのです。神さまはわたしたち一人ひとりのためにイエス様を十字架へと向かわせました。彼は息を引き取り、墓へと葬られました。しかしイエス様は、死の中から起き上がりました。わたしたちが一人で歩くことがないように。

主のご復活、おめでとうございます。

**桃山基督教会**

〒612-8039
京都市伏見区御香宮門前町184
TEL/Fax　075-611-2790
メール momoyama.kyoto@nskk.org
＜教会ホームページ＞
http://momoyama.hannnari.com/